

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	宮脇 健		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 4		
講義室	1314	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（2%） C1 倫理的思考・社会認識（3%） E1 学識と専門技能（30%） G1 状況把握（10%） F1 探求と論拠（5%） F2 課題解決（5%） K1 ライティングコミュニケーション（5%） K2 オーラルコミュニケーション（5%） L1 チームワーク（25%） M1 省察力（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標とステージ 3. 発展期 ～ 4. 定着期		
科目概要・キーワード	授業形態はオンライン（ライブ型）にて行います。危機管理の基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要となる研修の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、問題意識を確立し、卒業研究につながる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。授業形態は(講義・実技・実		

	習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 問題意識、研究方法、グループワーク	
授業の趣旨	■副題 リスク社会を分析・考察するために、公共空間を通じて不寛容な社会について考えることにします。 ■授業の目的 公園は様々な人に開かれた公共空間である。様々な人が他者に迷惑にならないように最低限の配慮を行いながら思い思いに時間を過ごしています。しかしながら、近年では、公園では「〇〇を禁止する。」といった注意事項を目にすることが多くなり、公園で出来ることは制限され、様々な制約を課せられた場になってしまっています。社会が多様化し、様々な人々がいかにして共存すべきか問われているにも拘らず、こうした規制はなぜ増えてしまったのでしょうか。公園などをフィールドワークの場と位置付けながら、現代の不寛容な社会について考えていくために必要な、問題意識、そして、仮説の構築、先行研究の収集などのマインドとスキルと獲得することを目的としています当然のことながらこの内容が4領域に関連します。 ■授業のポイント 公共空間を題材にしながら不寛容な社会について考えていきますが、学生の関心により、公園といっても何がリスクであるかは人により変わります。また、何を明らかにしたいのかという点は変わってきます。そのため、研究方法は様々なアプローチが考えられます(歴史的なアプローチによる分析、制度・政策の比較分析)。ただ、公共空間を知るために公共空間に足を運んで観察を行う必要はあります。そのため、フィールドワークを行います。また、研究の関心によっては、自治体にヒアリング調査に行くこともありますし、遊んでいる人に聞き取り調査を行うこともあります。様々な調査方法を問題意識に基づき、適切に駆使することで、公共空間を通じて危機管理に関する研究テーマの探求を行います。	
総合到達目標	公共空間を題材にしながらリスク社会について考察するために、研究に関する必要な方法論を理解し、そのために必要なスキルを修得する。 ■自分で公共空間に関する問題を発見し、説明できる。 ■その問題を社会科学の方法論を用いて実証的に検証できる。 ■卒業論文を書くために必要となる、引用文献の書き方、PCのスキルなどを身に付けることができる。 ■実証的な検証に関連して、その為の方法論と方法を実践するスキルを身に付けることができる。	
成績評価方法	■毎授業での報告：15回（30%）B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1 （評価の観点）報告では、自分もしくはグループの研究目的が的確に報告され、定義や専門用語の説明など、他者へわかるように説明できているのかどうか、適応ルーブリック評価の基づく項目に従いチェックを行います。 （フィードバックの方法）毎回、講評を行い、修正点を指摘します。また、学生同士の議論の内容についても後日、まとめ共有フォルダー内で返却します。 ■毎授業での議論：15回（20%）B1、C1、E1、G1、F1・F2、K2、L1、M1 （評価の観点）報告に対して、議論と質問を他の学生からしてもらいます。その時の発言が報告内容と研究に基づく内容かどうか、チェックを行います。 （フィードバックの方法）質問、議論の内容が収束後、教員から質問と議論の意図や指摘に関してコメントを行うことでフィードバックを行います。 ■報告用レジュメ：10回（10%）B1、C1、E1、G1、F1・F2、K1、L1、M1 （評価の観点）報告同様に、レジュメの形式要件と問題意識と先行研究の差異、仮説、検証方法が適切に記載されているかどうか、評価項目に従いチェックを行います。 （フィードバックの方法）報告と同様に、講評を行い、修正点を指摘します。また、後日レジュメに赤字かコメントをつけて学生に返却します。 ■グループ研究の成果物：1回（40%）B1、C1、E1、G1、F1・F2、K1、L1、M1 （評価の観点）学園祭で報告したグループの研究報告の内容を論文したものを1月の授業時に提出する。評価は11月に配布する、ゼミナールの論文としての形式要件、内容に関する手引きの評価方法に基づいて評価をします。 （フィードバックの方法）報告原稿は適宜、修正とコメントつけて共有フォルダーにアップします。	
履修条件	ゼミナールⅠを履修していること。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 各グループの研究活動1 ②授業概要 前期に計画した研究化計画に基づき、夏季休暇中に実施したアンケート調査、ヒアリ

	ング調査などの集計と内容をまとめることで、卒業論に必要なPCのスキル、分析のスキルなどを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 各グループで実施した調査の概要と結果をまとめてくる ④復習（120分） まとめたデータの再検討を行う。
2	①授業テーマ 各グループの研究活動2 ②授業概要 前期に計画した研究化計画に基づき、夏季休暇中に実施したアンケート調査、ヒアリング調査などの集計と内容をまとめることで、卒業論に必要なPCのスキル、分析のスキルなどを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 各グループで実施した調査の概要と結果をまとめてくる ④復習（120分） まとめたデータの再検討を行う。
3	①授業テーマ 各グループの研究活動報告1 ②授業概要 研究計画に基づき、学園祭での報告のためのPPTの作成のために、研究活動で実施した調査の内容をまとめて、各グループ15分程度で報告を行う。そのため、卒業論文に必要なPCのスキル、分析のスキルなどを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 各グループは共有フォルダーにある研究活動報告のまとめのフォーマットに従いPPTの雛形を作成してくる ④復習（120分） 報告した内容の再検討を行う。
4	①授業テーマ 各グループの研究活動報告2 ②授業概要 研究計画に基づき、学園祭での報告のためのPPTの作成のために、研究活動で実施した調査の内容をまとめて、学園祭で当日報告する内容について各グループ15分程度で報告を行う。そのため、卒業論文に必要なPCのスキル、分析のスキルなどを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習(120分) 各グループは共有フォルダーにある研究活動報告のまとめのフォーマットに従いPPTの雛形を作成してくる ④復習（120分） 報告した内容の再検討を行う。
5	①授業テーマ 各グループの研究報告のまとめ ②授業概要 研究計画に基づき、学園祭での報告のためのPPTの作成のために、研究活動で実施した調査の内容をまとめて、学園祭で当日報告するPPTの報告を行う。そのため、卒業論文に必要なPCのスキル、分析のスキルなどを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 各グループは学園祭のPPTの完成版を作成してくる ④復習（120分） 報告した内容の再検討を行う。
6	①授業テーマ 各グループの研究の論文化に関する説明 ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文とするために必要な作業について説明聞くことで、卒業論文に必要なPCのスキル、分析のスキルなどを身に付けることができるようになる。 ③予習（120分） 各グループは論文化に向けてそれぞれの執筆担当個所を決める

	④復習（120分） 論文にするにあたり、章立てを考える。
7	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化1） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 目次を立て導入部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
8	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化2） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 目次を立て先行研究のまとめの部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の先行研究の修正を行う。
9	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化3） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 先行研究のまとめと調査概要を部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
10	授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化4） ②授業概要 各グループで行った研究報告の論文化の中間報告を行う。分析結果と結論の部分を書くにあたり、再度、全員で検討を行うことで、内容に問題がないか確認を行う。そのため、問題意識の涵養と卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 目次を立て先行研究のまとめと調査概要を部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
11	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化5） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 調査結果に関する部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
12	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化6） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作

		技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 調査結果に関する部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
	13	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化7） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 調査結果、結論に関する部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
	14	①授業テーマ 各グループの研究成果のまとめ（論文化8） ②授業概要 各グループで行った研究報告をまとめたPPTの内容を文章化をして論文化した内容の途中経過を報告する。そのことにより、卒業論文に必要な引用文献の書き方やPCの操作技術などを身に付けることができるようになる（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 結論の部分を書いてくる ④復習（120分） 報告した論文の修正を行う。
	15	①授業テーマ ゼミナールⅡのまとめ ②授業概要 グループで行った研究報告を完成させて提出をする。その内容について教員から講評を受け、卒業論文に必要なスキルが身に付いたかどうか、学生自身が確認する（B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1）。 ③予習（120分） 報告書の完成版を作成してくる ④復習（120分） 講評を受けて、報告した論文の修正を行い再提出する。
関連科目		ゼミナールⅢ・Ⅳ（RMGT4603・4604）
教科書		特にありません。
参考書・参考URL		授業で適宜指示をします。
連絡先・オフィスアワー		■連絡先 開講時に告知をします。 ■オフィスアワー 金曜日3限
研究比率		■危機管理領域との対応 災害マネジメント：25%、パブリックセキュリティ：25%、グローバルセキュリティ：25%、情報セキュリティ：25% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学：90%、法学：10%

